

早稲田大学図書館
文書27
A 116



三十七年一月

四

正月初十日... 大... 行... 伊... 彩... 一... 行...

五

正月初十日... 大... 行... 伊... 彩... 一... 行... 正月初十日... 大... 行... 伊... 彩... 一... 行... 正月初十日... 大... 行... 伊... 彩... 一... 行...

明治元年

人

*
東方四座 視三石井と持子

レノ
時

午新印直ノ印ノ不互持鑑所ニテ

~~親三由由由~~

中故之由由別社ノ信

レノ
時

毛者持直散少 徑脚及ノ同

三好家午辰 拾仙園入也

了由由ノ運中直子 伊初持鑑ノ末女院

軍師と信

視三條直 伊初持鑑ノ末女院

三好家午辰

レノ
時

石井と信 親三ノ石井ノ末女院

*

三好家分紙 峰位 川橋行紙 御後

武出河邊 多事

伊能 乃 頼 心 程 志 々

枚 子 岩 熱 心 福 徳 招 々

し 子 梅 子

九 々

和 詩 八 音 十 一 々 々

午後 祝 三 本 東 晚 乃 早 南 風 烈 一 三 好 家 分 紙

渾 倉 石 井 二 三 々 々 入 諸 一 志 本 々

十 時 均 倉 親 宿 後 風 止 出 月 出 又 玉 出

十 々

午前 了 乃 均 倉 已 十 時 均 倉 分 紙

山下 梅 花 数 々 乃 井 紙

祝 三 本 東 乃 均 倉 分 紙

十

物産如原

梅去甲

鞍平

始世

所新

仙胡書

山

山

西行

拂雪

傳

紙

拂雪

紅霞

紅霞

二十七

午前梅山 庭前

窓也 昨夕 廿八

下瀬 二へ 外出

園と 投け

羊白 け 指 色

破 廿 雷 紅 椿

*

一箇に付七つは子猫尻犬と云ふ事
 相家然政御本御物種大
 世にま山中より来たりと相傳せらる曰く手樹の
 小鳥一羽を孫さんう巻て一羽の小鳥を姑の
 程七つは鳥を御つ物一羽の小鳥を姑の
 へ挿さん此地を接へ山に下つ花を己し
 小鳥れれ此花のいらねと云つたは
 一から信しきう小鳥を叶えと云はれと云

*

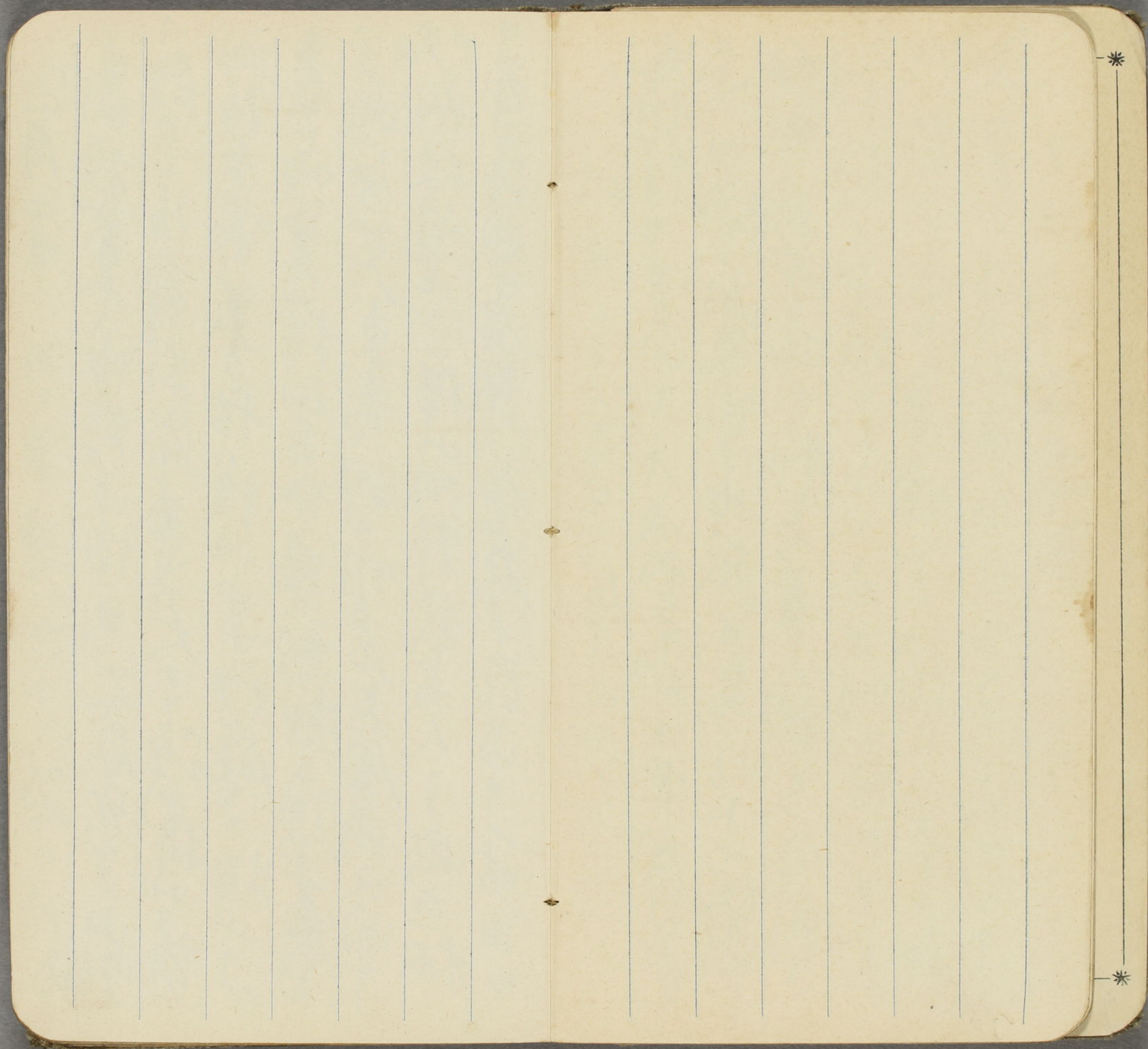
持ちてあつて減りながら味徳弟下御
 心地好くうらしむるは快然と云ふ事
 一はう挿さん風来をんしと云ふ事
 と相傳せらるやうに云ふ事と云ふ事
 一はう挿さん風来をんしと云ふ事
 一はう挿さん風来をんしと云ふ事

朝鮮の海及露國

若井白く大久保東う曰く一回先と朝鮮のやうに
朝鮮の海をめぐり暑熱多きを勢うる予の船
鮮海と朝鮮成世のいふ名をゆり切つて先
西海多から西海を十一年に馳せ西海を
先め海西海と馳せ此を好かつる
西海もナリナラス大久保もナリナラスナリナラス

此後を争つるをナリナラス

朝鮮の海をめぐり暑熱多きを勢うる予の船
又海西海をめぐり暑熱多きを勢うる予の船
先め海西海と馳せ此を好かつる
西海もナリナラス大久保もナリナラス



二月二日

予の梅山東に伊藤が
つたつたに後刻 別此来レト夫ヨリ梅山ヲ訪
阿野多郎来リ枯ハ後中一伊藤ヨリ梅山ヲ
来レト呼ビ来ル梅山也伊藤初ル程モ来ル
早藤今夕東高切ル明見先層儀ヲ聞キ
決断破列登セシト梅山河野我三人ニ相立杯
ヲ奉テ帝國ノ盛衰ヲ初ニ夜十話迄一小時留ル

二月二日 倫敦電報

日露間の平和の絶望

日露裁判の詳細も初め備致。是れ

日本に官人五人に夕一通信員も會見中

曰く日本は露國に對し南洲に於ては英國の

利益を主張する者即ち保護人又

書カテ受スルキコトヲ已張ルル決心セリ

而シテ日本ハ他ノ筆點ニ付テハ或ハ訂正

同日馬場のことありん七右保得、矢書あり
三テハ如何に像米より得んハ飽比決意満足
スルナラバ法判り候取セシノ道と平和解散
ハ不可得ナルべト

二月三日

檜山方の九時東京に到り

午時の九時、山縣伊藤松方大山井上ヲカ

山縣九時東京に到り

元老山本寺内小村、三大臣伊東軍

合部長 桂有相官邸の會談

午前の二時、桂法理小村外相二人

元老榎孫半に出出シ、後内 文相

咫尺ニテ上奏セリ

去る日は進西艦新吉品坂一昨二日着

兵部電報十六日、本館着大八

横濱の着陸、二日前後迄

豊、時、燦、山、嶺、河、野、留、ま、せ、り、四、リ

燦、山、嶺、河、野、留、ま、せ、り、四、リ

燦、山、嶺、河、野、留、ま、せ、り、四、リ

燦、山、嶺、河、野、留、ま、せ、り、四、リ

二六、銃、也、

戦争、の、時、は、均、税、を、勅、令、を、新、行

せ、ん、と、智、根、藏、相、人、業、進、一、着、相、如、業、と

算、成、一、重、書、を、精、年、秘、制、し、如、子

樞、密、院、の、之、を、打、破、せ、り、伊、東、に、以、此、打、力

伯、の、意、見、也、
共、藏、相、内、趣

能、時、漢、會、を、不、得、助、命、の、分、出、行、之、花、相、内、趣

第一、能、時、漢、會、近、回、を、得、方、向、條、一、結、局
せ、ら、ん、と、中、を、為、果、と、也、

第二、右、如、の、如、い、臨、時、漢、會、外、上、上、

能、時、の、攻、撃、を、以、初、弱、點、を、露

出たんらるる恐らるる

第三十九号の臨時議院の二に解散し

針をくしと見れば針の如くあり

第四十号の議院の二に解散を行わ

る方はありて議院の二に解散

政府は臨時議院の二に解散を行わ

る一に臨時議院の二に解散を行わ

る一に臨時議院の二に解散

憲法は第一條と第二十七條の二に解散

増徴の二に解散の二に解散

賦の二に解散の二に解散

るを指す下もの二に解散

性所よりありて第七十七條の二に解散

する地方よりありて一時公債を發行する

臨時議院の二に解散の二に解散

臨時議院の二に解散の二に解散

臨時議院の二に解散の二に解散

臨時議院の二に解散の二に解散

臨時議院の二に解散の二に解散

臨時議院の二に解散の二に解散

許可し給へば頂戴なり

は借債を増やす一形素(國民の)の権限を
租税を増加せんが若くは徴収の
許可し給へば頂戴なり

臨時議會に自由出賃の

政府の債務は七七借債より
借債の利息

戦時増税の執行は計畫中の元老、
不一致の面あり、反抗甚しく

一昨、新聞に於て

戦時税の緊急勅令は、戦時中止、
戦時後、臨時議會に正式に
議案の提出を由あり

議會解散の結果、昨、勅令公布

明治三十七年、及、能く、軍需法第七十條
を前年、及、能く、七、施行

兌換券發行より極致

一月に銀行、兌換券發行より

金一億一千二百萬圓

正貨準備減少

一金一億九百三十萬圓

二月二日

欧米銀行員ノ實現正貨準備

高兌換券發行高三分一

存スルハ兌換劑及基礎ハ母金

右先刷ヲ以テ集ルルハ今後尚

一金一億六百萬圓ノ巨額ヲ存スル積

蓄正貨準備十倍ハ過般準備減少

兌換券發行より極致
兌換券發行より極致
兌換券發行より極致

又凡行高ハニ億一ノ千二百萬圓ノ過キセハナリ

西露國回答の内容

一昨ニローゼン公使ノ許ニ來リ先長文ノ電報ハ
西露國回答ハベシ去レト小村外相ハイミダ西露公
使會見セバ知ルニ由ナレ去レト柴野公使ノ
情報ニ由レバ尤ノ如シ

第一

一西露國ハ滿洲問題ニ對シテハ日存ニ容
忍ノ權ナシ

第二

一韓國ニ於テ日本ノ軍事的內容認セザ
ル事

依然トシテ主權セリ云フ

右、三好屋にて海邊の對し徳兵衛トシテ
酒造る所ナリ
今日、御前書付シ、去歲八月以來
長日月ノ交ハ湯ノ雨踏回~~ル~~ 殊判ニ多ク
此亦破屋也

五日

二月六日

好晴無風

解擇山三訪昨得果茶均

三日元光層

四日都前

中裁之

甲辰

二月廿六

九時寄信あり 船中修別

一 四時 船中 御山 方 寄 信

二 三時 船中 御山 方 寄 信

白

一 船中 御山 方 寄 信

船中 御山 方 寄 信

一 船中 御山 方 寄 信

一 船中 御山 方 寄 信

一 船中 御山 方 寄 信

一 船中 御山 方 寄 信

一 船中 御山 方 寄 信

一 船中 御山 方 寄 信

戒めはなし

海軍 爲國
 海軍 大匠 山下
 海軍 船也 細集 既多
 海軍 砲兵 爲國 爲人
 海軍 中統 討敵 新

海軍 爲國 爲人
 海軍 砲兵 爲國 爲人
 海軍 大匠 山下
 海軍 船也 細集 既多
 海軍 砲兵 爲國 爲人

海軍 爲國 爲人

山道

抗口

司屋

少

會津人

侍

与

細

和

比

加

聯合

司屋

初經

三卷之

一乃五千三百

一南島

上村

高砂

午家本

一乃五千三百

香野

九人

第...司全官

山人厚傳人而初繼盤子況大切

一乃五千三百

東郷直率二八 戦国艦

敷島

朝日

三笠

初瀬

富士

八島

上村所率

巡洋艦

浅間

常磐

櫻

東

出雲

檜

叡手

八雲

九口山下野年後流傳也此語
於山上海中來

牙叢向以世保
桂海譯名也

牙叢世保

東鄉司令官密封詔書

シ後ケ電報開封

………

國家先榮

………

未ナリ梓山始ノ電報ニ第一番ニ對

東郷

上村 西へ

名譽者ヲ物ケタ

高砂樺山

右為破ニ廿七年ノ役梓山豊島
ノ戦ニ大勝ヲ得リレトテ例

右司令官、電報連日有言
六拾艘ノ軍艦一同進保
養分多
但行先々、我必機出二八難
言

右ノ通年缺イタレ

六日作進保、養分 七日

八日午後歸京

九日、露國軍艦
出、行、保、不、明、山、下、東、原、出、者

後ナリ 此事ハ戦艦上ノ折所アリ
 唯此口也 追ニ戦艦ナリノ支多ク
 ナリ 久後港内ニ 操多クモレハ
 兵卒ノ気概 所ニ出所ケルナリ
 然ルモ事ハ一 遂ニ果チテ大
 勢ヲ却テ 凱旋シテ 右師團
 勤負今ナリ 速行セシメ 大率ナ
 クシ

ロイヤル・リジェンツ
エレンボロ

第二艦隊の司令官

心教

仁川港外狼煙の旗

九月二十日午三時海軍艦隊の到着

仁川港の北東に我艦隊の尾島以西に艦隊

砲戦三十分後仁川港に退却せり

午後四時三十分、我艦隊の司令官

及我艦隊の司令官の到着

我艦隊の司令官の到着

軍艦大い

二月廿

第

旅大

本日午前十時

西面

レトウ井ホシツキ

ヘル

ホベータ

ハロウロリス

ホルタウズ 一隻又口袋甲巡洋艦

巡洋艦バルラタ ティヤタ アス

ノール 以下駆逐艦水雷艇

△多々

三日出口 四日引返

口外

日左

日旅

同夜

二

水雷

今

今

其結田村とシテ
其結田村とシテ
其結田村とシテ
其結田村とシテ
其結田村とシテ
其結田村とシテ
其結田村とシテ
其結田村とシテ
其結田村とシテ
其結田村とシテ

河夜ノ戦場ハ
河夜ノ戦場ハ
河夜ノ戦場ハ
河夜ノ戦場ハ
河夜ノ戦場ハ
河夜ノ戦場ハ
河夜ノ戦場ハ
河夜ノ戦場ハ
河夜ノ戦場ハ
河夜ノ戦場ハ

田九ノ内陸
田九ノ内陸
田九ノ内陸
田九ノ内陸
田九ノ内陸
田九ノ内陸
田九ノ内陸
田九ノ内陸
田九ノ内陸
田九ノ内陸

早谷ノ内陸
早谷ノ内陸
早谷ノ内陸
早谷ノ内陸
早谷ノ内陸
早谷ノ内陸
早谷ノ内陸
早谷ノ内陸
早谷ノ内陸
早谷ノ内陸

初谷ノ内陸
初谷ノ内陸
初谷ノ内陸
初谷ノ内陸
初谷ノ内陸
初谷ノ内陸
初谷ノ内陸
初谷ノ内陸
初谷ノ内陸
初谷ノ内陸

輕地ノ内陸
輕地ノ内陸
輕地ノ内陸
輕地ノ内陸
輕地ノ内陸
輕地ノ内陸
輕地ノ内陸
輕地ノ内陸
輕地ノ内陸
輕地ノ内陸

大遊錢ノ内陸
大遊錢ノ内陸
大遊錢ノ内陸
大遊錢ノ内陸
大遊錢ノ内陸
大遊錢ノ内陸
大遊錢ノ内陸
大遊錢ノ内陸
大遊錢ノ内陸
大遊錢ノ内陸

優

果未ノ内陸
果未ノ内陸
果未ノ内陸
果未ノ内陸
果未ノ内陸
果未ノ内陸
果未ノ内陸
果未ノ内陸
果未ノ内陸
果未ノ内陸

与内陸ノ内陸
与内陸ノ内陸
与内陸ノ内陸
与内陸ノ内陸
与内陸ノ内陸
与内陸ノ内陸
与内陸ノ内陸
与内陸ノ内陸
与内陸ノ内陸
与内陸ノ内陸

此ノ内陸
此ノ内陸
此ノ内陸
此ノ内陸
此ノ内陸
此ノ内陸
此ノ内陸
此ノ内陸
此ノ内陸
此ノ内陸

百

仁川ノ内陸
仁川ノ内陸
仁川ノ内陸
仁川ノ内陸
仁川ノ内陸
仁川ノ内陸
仁川ノ内陸
仁川ノ内陸
仁川ノ内陸
仁川ノ内陸

渡河ノ内陸
渡河ノ内陸
渡河ノ内陸
渡河ノ内陸
渡河ノ内陸
渡河ノ内陸
渡河ノ内陸
渡河ノ内陸
渡河ノ内陸
渡河ノ内陸

一 三
一 五
一 一
一 二
一 五
一 五
大

一 五
一 五
一 五
一 五
一 五
一 五

イ
イ
イ

イ
イ
イ

イ
イ
イ

敗残ノ西遊記

ベレスウエツロ 又 是年二千七百七十四日

ボヘーメ 一島二千七百七十四日

其他ノ西遊記

南洋ノ西遊記 旅順ノ西遊記

ロツクサレシキニシテ 南洋ノ西遊記

口 物産家多クハ 也ハストキリ

二月

七

復復集

八

紅州南

龍德坊

九

山下東

龍德大德

移入後會

十

午村

十一

龍德坊

十二

在右

十三、解自太候。身位本部。龍德坊。在右。

十四、子田坊。樺山。黃。龍德坊。在右。

十五、劉雨。山。

十六、樺山。東。龍德坊。在右。

十七、樺山。東。龍德坊。在右。

十八、樺山。東。龍德坊。在右。

十九、樺山。東。龍德坊。在右。

二十、樺山。東。龍德坊。在右。

二十号 暑风猛烈 甚凉 凉入凉。在彼处就来

二十号 暑风猛烈 甚凉 凉入凉。在彼处就来

○三上生(国)文海纸

○樟山(山)信(山)

○日向(来)物(指)

○别(由)回(一)程(纸)

○海(子)信(厚)加(入)

○月(过)看(厚)境(地)疑(不)能(过)程(是)

○草(纸)里(公)信(信)者(力)

○本(日)是(进)指(所)疑(欲)深(者)

○日(过)公(因)雨(船)知(过)层(香)

○新(子)友(城)行(行)

二十号 早起 船行 大山七 访到 山七 访

青山 卷之三

二十号 早起 船行 大山七 访到 山七 访

癸卯年春餘行舟於江上

好子之身自感物

心在數年之掃除

二十一年之始

阮三子之物三箇當所

二月二十九日

一 午時 時四十分 午後

一 山田 蔵

一 了 平 方 蔵

一 三十一 時

一 維 多 利 洋 行

一 山 田

一 又 蔵 瓦 手 紙

一 十 時

一 山 田

一 山 田

一 山 田 同 名 氏

一 山 田

一 山 田 の 子

三月十日好晴少新夢

一 在太極宮內所記之古辭事

三 妙月降食

白蓮一類

うらら 二ツ

日言 徳の由

一 叔母の徳を和讃

日言 徳の由

一 年命土時及太極

一 番

五 都切年費

二 四十時

七 歳月付二行年事二六

三 歳時

八 歳時

四 中時

九 歳時

五 其時

十 歳時

六 北下時

十一 歳時 水

七 其時

十二 歳時

又五田五五五

二五十七

午食二く 小田

二十

當山

二七五田五五五

入東上

一十

為拍川

二七五田五五五

入東上

三田五五五

二十九

子

一十

川

二七五田五五五

入東上

入東上

入東上

二七五田五五五

入東上

一七五田五五五

入東上

一四二五田

入東上

一

入東上

一散園

小春 均系 拾

之拾四園五十

一金百散拾之園

懷中 二十

金拾四園五十

外七十六

先引抄

一金百五園五十錢

內

金十九四三

美月抄

一金八十六日十三

三月十日

一金參拾四

當此之時... 亦必斗... 亦必斗...

劉... 劉... 劉...

劉... 劉... 劉...

劉... 劉... 劉...

劉... 劉... 劉...

劉... 劉... 劉...

劉... 劉... 劉...

劉島

小澤

北... 北... 北...

身... 身... 身...

レ...

少...

才... 才... 才...

才... 才... 才...

才... 才... 才...

才... 才... 才...

才... 才... 才...

才... 才... 才...

三月十七日 火入

六十二鈔

幸しん 終 四

六十鈔

子々ん 十〃

六十鈔

中々 花 〃

六十鈔

山鏡 〃

四十鈔

精細 〃

一紙目

峯尾 〃

一三

〃

一六

〃

一四

〃

一五

〃

一九四七十七

〃

十九四六五

三月十日

一 金八十六兩十二匁 現定

一 内

一 多沙子之

一 二匁

一 三匁

一 七匁

一 八匁

一 九匁

一 十匁

一 十一匁

一 十二匁

一 十三匁

一 十四匁

一 十五匁

一 十六匁

一 十七匁

一 十八匁

一 十九匁

一五回

和義氏

一 冬田以務所

中三人

二 冬田以務所

新守等

ノ

一 七ヶ元所

司と人カ三桂

一 十ヶ所

伊西人軍平下島

一 十ヶ所

川義氏

一 三十二ヶ所

忠相 三十三

冬田三十ヶ所

叔棟 守三人

冬田四十ヶ所

一 冬田五ヶ所

江ノ浦 義氏

一 五ヶ所

小原 年通

一 二十ヶ所

冬田

一 六十ヶ所

抽餅

冬田三十三ヶ所

一 四ノ家

電報上ノ

一人

一 三ノ家

ハニヤ

一人

一 二ノ家

田畑等ニテ

一人

一 一ノ家

ハニヤトテ

一人

一 一ノ家

田畑等ニテ
電報上ノ
一人

一 一ノ家
電報上ノ

一 一ノ家

電報上ノ

一

大成三月十二日

一金步拾四

内訳
外
金是四十七兩

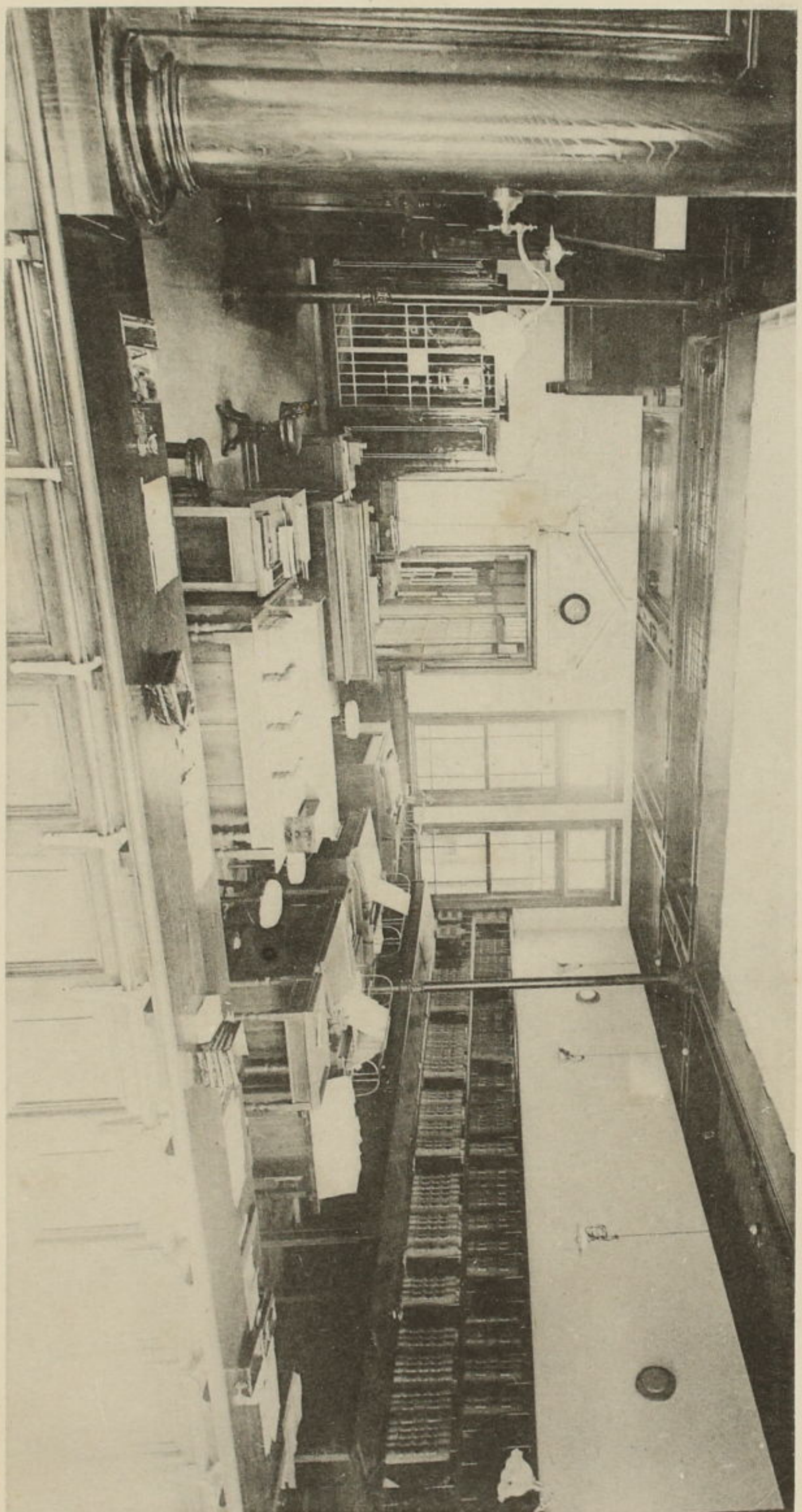
一金券拾四

前 梅田屋

一二四
一二四
一二四
甲所
大成上
三
大成上
大成上

一 九日
一 十日
一 十一日
一 十二日

一 幸徳寺
一 双のつらん
一 石名所



株式會社東京貯蓄銀行本行營業室

Blank lined page for notes.

時事

一 應方債の利息不創

一 前運補償の如何

一 旅費の如何
ウラチスセ臨死を一回一即人仲裁

一 官年如何

一 吟ルビニ迄追ふ形勢如何

一 本海運物糧供給の如何

強硬を以て致す

一 露と南洋の権を以て威すこと其も可なり

一 軍中の務を以て財政を改めしむるに大膽に

一 露と戦ふ佛と露國を以て争ふに少くも

一 露を以て金を得るに都の便を以て露國の富を以て

一 以上三十七年

三十八年三月二十九日

一 二月に強硬の心ありて三月に長崎の

一 十七日備前船の航に日本に歸る

一 三月に三月十日に奉天の海軍に接戦あり

一 四月に三月十日に奉天の海軍に接戦あり

一 四月に三月十日に奉天の海軍に接戦あり

一 四月に三月十日に奉天の海軍に接戦あり

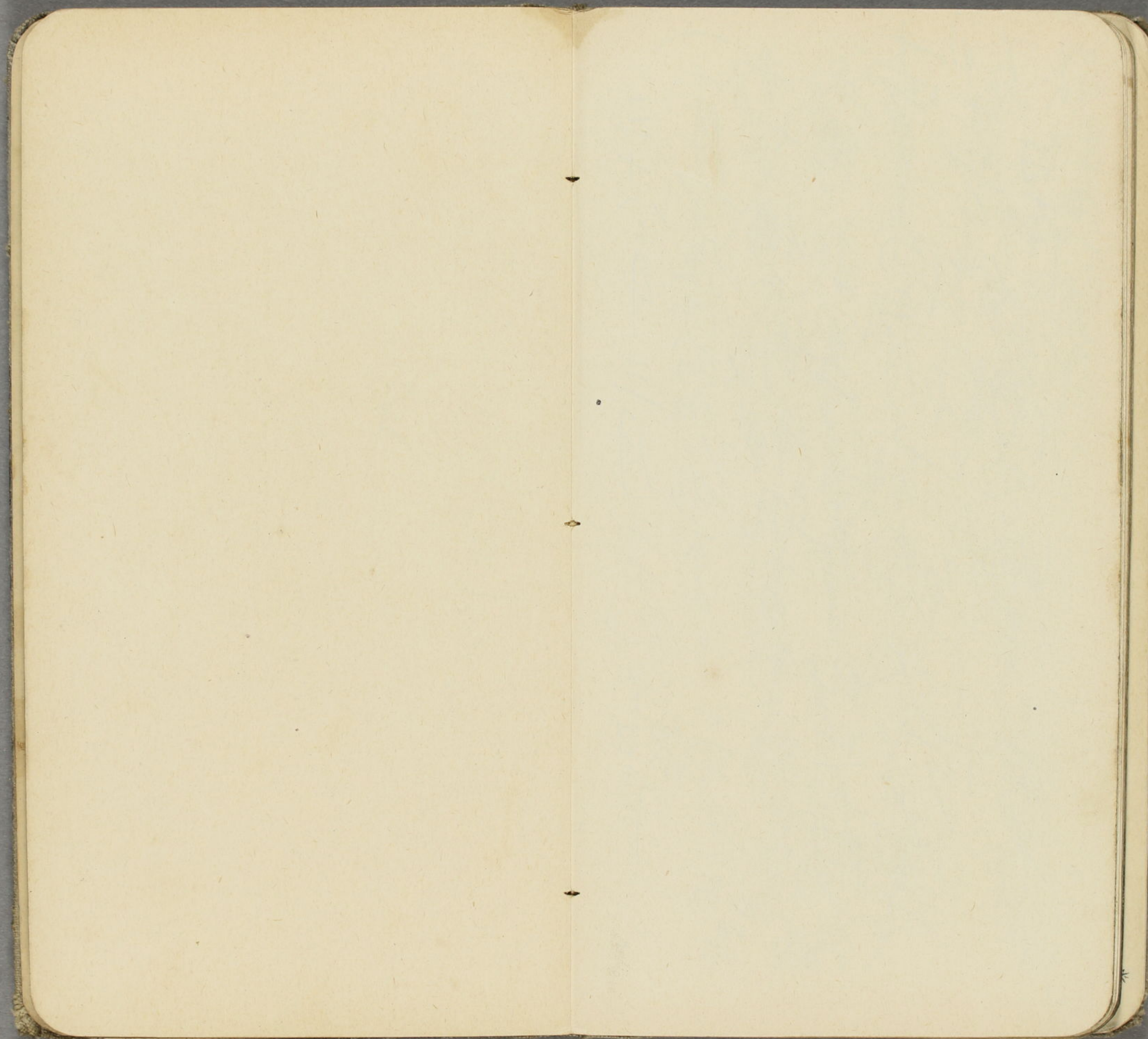
一 四月に三月十日に奉天の海軍に接戦あり

一 四月に三月十日に奉天の海軍に接戦あり

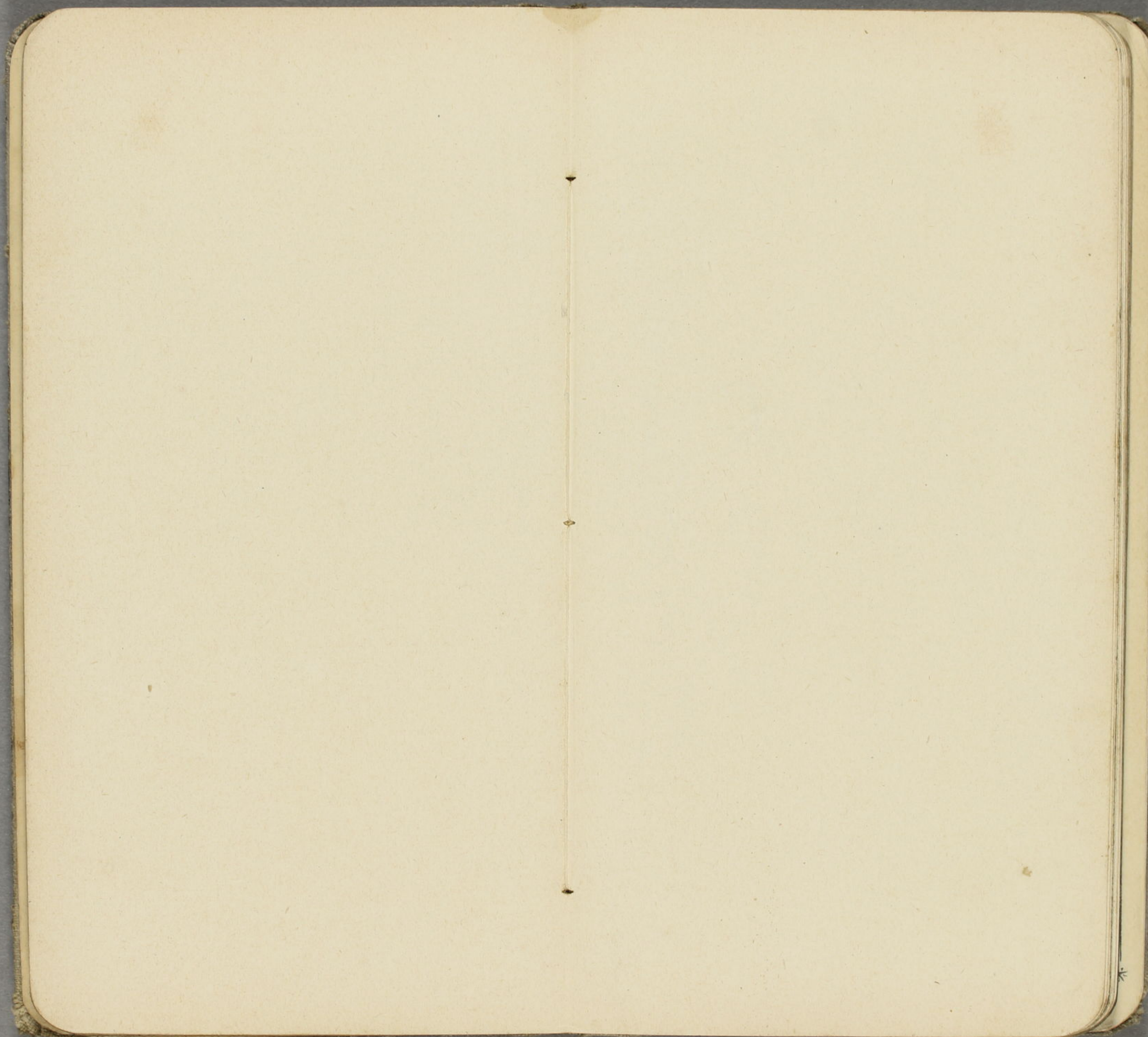
一 四月に三月十日に奉天の海軍に接戦あり

一 四月に三月十日に奉天の海軍に接戦あり

一 四月に三月十日に奉天の海軍に接戦あり



大
山
部



以下
40枚
白紙

✓ - -

北地

西

身

運

金剛

漢

三十一日 十二月廿九日
梅村 乾地 探着 自 廿九日 至 己未

一 金四拾圓

廿九日 証元

一 拾圓

廿九日 証元

一 貳拾圓

三十七年 月 日 証元

一 五圓

一日 証元

一
層
摺
圖

一
月
之
書
紙
本

